

ストップ子ども兵士アクション

停戦したウガンダ北部 への医療物資支援報告



1980年代から続いていたウガンダ政府と反政府勢力「神の抵抗軍（LRA）」との内戦。ウガンダ北部グルはLRAによる戦争被害を受けてきた地域で、LRAは子どもを誘拐し「子ども兵士」に仕立て上げることで世界的に注目を集めてきました。また長期にわたる内戦は多くの国内避難民を生み出してきました。

前号でもお伝えしたとおり、ARCの「ストップ子ども兵士アクション」キャンペーンでは10月に、内戦を経たウガンダ北部・グルにスタッフ岡原功祐を派遣し、元・子ども兵士の支援施設や内戦で被害を受けた住民に対する医療品支援を実施いたしました。支援活動の経過をご報告いたします。

支援先団体の概要

1. UYAP (United Youth Action for Progress)

UYAPはアフリカ北部グルを拠点とするNGOで、2003年にウガンダ政府によりNGOとして認定された。UYAPは元少年兵の支援を中心に、教育活動や彼らの自立を促す支援活動（農業指導など）を行っている。主な活動はモバイルクリニック（巡回医療）によるIDP（国内避難民）キャンプ、職業訓練校運営、また元・子ども兵士が暮らす全寮制の学校運営である。奨学金制度もあり、現在この奨学金によって1人が大学へ、7人が高校へ進学している。

専任スタッフは6人おり、給料は100ドル～200ドル/月となっている。その他ボランティアスタッフとして医師が3人、医学生が35人、医療事務に2人が活動に参加している。

2. GUSCO (Gulu Support the Children Organization)

GUSCOはグルに本部を置くローカルNGOで、戦争により傷ついた子どもたちへのケアを主な活動とする団体である。1994年に設立された、グルでは最も規模の大きなNGOの一つである。団体は総勢40名のスタッフからなり、グルにあるリハビリ施設の運営や、村へ帰還した元少年・少女兵士のモニタリングなどを行っている。主な資金源はSave the Children, TDH (Terres des homes), UNICEF, Common wealth, WFPなどである。これまでにGUSCOのリハビリ施設では約8000人の子どもたちがカウンセリングなどのケアを受け、村やコミュニティへの帰還を果たしている。

派遣スタッフ岡原功祐の支援活動経過日誌

10月3日(水)

夕方5時のタイ航空で成田を出発。バンコク、ヨハネスブルグを経由して、翌日ナイロビに到着した。

10月4日(木)

同日夕方ナイロビ着。その後、ホテルを取り、夜になると治安が悪くなるので、外出はせずそのまま就寝。

10月5日(金)

カンパラでの医薬品購入を支援先の NGO・UYAP のエマニュエル・ムワカ氏が手伝ってくれることになっていたため、先方がグルからカンパラに出てくる予定などを聞くためにメールにて連絡。

10月6日(土)

UYAP のエマニュエル・ムワカ氏からメールの返事があり、その後電話にてカンパラでの医薬品購入に関して、スケジュール、薬局、購入医薬品目などについて打ち合わせをする。翌日のバスにてナイロビからカンパラに向かうことにする。

10月7日(日)

ナイロビ発。カンパラまでバスで移動。途中国境を越える。ウガンダビザは国境で取得。

10月8日(月)

風過ぎにカンパラに到着。エマニュエル・ムワカ氏、同UYAP スタッフのデニス・オコット氏と合流。医薬品用の5000ドルを銀行で換金し、カンパラでは一番品揃えが良いといわれるMAVID PHARMACEUTICALSにて医薬品を購入する。医薬品の購入リストは、エマニュエル・ムワカ氏がUYAPに参加している医師と相談して、必要なものをリストアップしてくれていたため、それに従うことにした。また運ぶ物資の量が多かったため、ピックアップトラックを一台チャーターすることにして、その手配なども行った。



10月9日(火)

カンパラ出発 - グル到着。医薬品を積み込み、午前11時にカンパラを出発。しかしながら途中悪路のため車が2回ほど故障。出発前に点検していたが、これだけ故障するのは運が悪かったとしか言いようがない。結局グルには夜11時半に到着した。その

ままゲストハウスにチェックインし就寝。

10月10日(水)

一日中、購入した医薬品の仕分け作業などを行う。当初3つの現地 NGO=UYAP, World Vision, GUSCO に医薬品寄付をすることを考えていたが、World Vision はすでに多くの支援が集まっているので断られたため、UYAP と GUSCO に寄付をすることにする。



リストと照合する作業の様子

10月11日(木)

GUSCO を訪れる。医薬品の寄付は今まではじめてのこと。医薬品の支援は、その他の物資の支援や職業訓練のオペレーションなどと違い、どこにおいても色々手続きが必要となる。地区の保険局のオフィスに行き、医薬品検査の予約をしようとしたが、オフィサーが全て出払っていたため、翌日また戻ることにする。

10月12日(金)

保険局にて医薬品の検査を予約する。翌日、土曜日だけが特別に検査をしてくれることになる。

10月13日(土)

保険局による医薬品の検査。滞りなく終了したが、点滴セットと点滴用生理食塩水、ブドウ糖については、医師が支援先の NGO にいることを証明しなくてはならず、月曜日にUYAPに参加している医師と共に保険局を訪れ、許可を取ることにする。

10月14日(日)

休日ではあったが、UYAP のスタッフに手伝ってもらい、UYAP と GUSCO の両 NGO 用に医薬品の仕分けを行う。

10月15日(月)

保険局にUYAPの医師とともに出向き、医薬品使用の許可を受けたが、書類をもらえなかったため、翌日に受け取るようになった。午後にはGUSCOに対しても医薬品の受け渡しを完了する予定だったが、保険局からの許可書類を受け取れなかったため、翌日に持ち越し。

午後は現地のプレス関係者に対して、記事の配信などを依頼する。日本においてもプレス配信などを行うとなお良いと思われる。



医薬品を支援先ごとに仕分けし、保健所の検査を受ける

10月16日(火)

午前中、保険局へ行き、医薬品寄付のための検査許可証の発行を待つが、結局午後になって渡されることになった。医薬品の寄贈のために GUSCO の担当者に電話をかけるも、外に出払っていたため、午後一番で IDP キャンプに行く。すでに小さな集落よりも大きな町のようになっていて、井戸も数箇所あり、ここで生まれた子どもも多いということだった。村に帰っていく人もいるが、時間が経ちすぎて村がなくなっている(草むらになってしまっている)人たちがいるようで、その人たちはキャンプから離れる気がないようだった。すでに家も多くあり、ここがそのまま町になるような気配もあった。UYAP が IDP キャンプに暮らす元・子ども兵士など 50 人に対して指導している農場も近くにあり、キャベツやオクラ、ナスなどが植えてあった。UYAP は種を子どもたちに渡して農業指導し、育った野菜は彼らが自ら売り、その収益でまた畑を広げていくというプログラム。UYAP は一切コミッションは取っていない。数人の元少年兵にインタビューを行う。

その後グルへ戻り、午後 4 時に GUSCO が医薬品の受け取りにやってきた。そのまま GUSCO のオフィスに行き、書類などを確認。GUSCO の施設を案内してもらった。



グルの市内

10月17日(水)

朝9時に HIV/AIDS 関係のソーシャルワーカーグループと打ち合わせ。グルの周りにある集落の HIV 感染者たちに会いに行く。ARV (抗レトロウイルス薬) は入るようになってきており、薬を受け取っている人は健康そうに見えた。ただし、食糧が足りなく、それが問題だという。戦争が終わり治安は良くなってきたが、HIV が大きな問題となっている。

午後は GUSCO で調査のアレンジや打ち合わせなどを行う。今週は難しいので、来週以降に各村を回る際に、元少年兵のリサーチなどに協力してくれることになった。

10月18日(木)

午前から午後にかけて UYAP が運営している職業訓練学校にて、元・子ども兵士の聞き取り調査を行う。多くの子どもに話を聞いたが、彼らが経験したことなどはどれも似通っている様子。それだけ多くの子どもが同じように誘拐されたということだろう。明日、ようやく UYAP の倉庫に医薬品を運搬できることになった。

またウガンダの全国紙 Daily Monitor に取材に来てもらった際の記事が本日付の新聞に載っているのを確認した。



現地新聞に支援活動が掲載された

「NGOが戦争の影響を受けた子どもたちに医薬品を寄贈」

10月19日(金)

午前から午後にかけて、UYAP の倉庫に医薬品を運搬。元・子ども兵士インタビュー。そのほかは特になし。GUSCO の施設も月曜日にならないと取材できないとのこと。

10月20日(土)

午前中は UYAP のモバイルクリニックの実施予定などをチェック。ボランティアの医師や学生とミーティング。来週末に行う方向ということなので、打ち合わせ。午後は NUMAT という USAID から支援を受けているエイズ・マラリア・結核対策の NGO・NUMAT に出向き、HIV やマラリアの状況のブリーフィングを受ける。

10月21日(日)

オフ

10月22日(月)

GUSCO と一緒にフィールドに行く予定であったが、GUSCO

がフィールドに出ないということになったので、午前中は元・子ども兵士に関するブリーフィングを受ける。午後はNUMATで病院や活動を見せてもらうための手続きをとる。

10月23日(火)

朝、指定された時間にGUSCOに行くが、フィールドでの予定がキャンセルになったという。他に緊急にやることができたので、フィールド要員をそちらに回してしまったとのこと。よって今日はフィールド調査をできないことになった。代わりにGUSCOに食糧を受け取りに来ていたチャイルドマザーたちにインタビューをした。ただ、どの母親も以前インタビューしたのと同じようなストーリーが多かった。コミュニティに戻った後も、わりと受け入れられているようであるが、たまに他の村人から後ろ指をさされるようなことがあるといったもので、どの母親の話も同じように感じた。GUSCOの食糧配給は1ヶ月に一度で、遠くの村に住んでいる母親たちは車に乗ってくるという。往復で10,000ウガンダシリング程度かかるようであるが、食糧そのものは40,000ウガンダシリング程度の価値があるそうなので、車代を払っても取りにくる価値があるという。チャイルドマザーへの食糧配給は基本的に1年間続けられるが、状況によっては1年以上になる場合もあるという。午前・午後を通して食糧配給に訪れていたチャイルドマザーにインタビューをして一日を終えた。

10月24日(水)

朝9時にGUSCOのオフィスへ。Bobiという地域での調査と一緒にいくことになっていたが、自分で車を調達しろということになり、仕方なくバイクで行くことに。結局GUSCOとは関係なく調査をして、元・子ども兵士のインタビューを午後まで通して行う。12歳の男の子の話が印象的だった。8歳の時に誘拐され、2年間LRAの中で過ごしたという。斧で通りかかった女性を殺すまで殴り続けた経験があるという。何とか逃げ出したが、リハビリ施設には入らずに、そのまま元々いた村で過ごしたという。本来であれば、全寮制の元・子ども兵士のための学校があるのだが、GUSCOやワールドビジョンのリハビリ施設を経由していないとIDをもらえないため、そこには通えないという。村に戻った後も最初は村人から恐れられたという。今でも周りの子どもたちから元・子ども兵士ということで見られることがあるという。本来であればNUMATのHIVの施設を夕方見学する予定であったが、先方に突然予定が入ってしまったとのことなので、翌日に繰越となった。

10月25日(木)

午前中にベルギー政府によって建てられたという元・子ども兵士のための全寮制の学校を訪れるが、待たされたものの結局リサーチについては治安上の理由ということで拒否されてしまった。午後はNUMATが活動しているというグル市内の病院でHIV患者の状況を見てまわる。現在のところ、テストを受けて陽性とな

った人には無料でARVが配られているという。ただし、エイズで死ぬ人が少なくなったとは言え、ウガンダの習慣が変わるわけではないので、HIV陽性の人々が、持っていない人と性交渉をする確立もその分あがるため、今後患者の数は増えていくだろうとのことだった。ARVが効かなかったり、薬を処方しはじめたのが遅すぎた人などもおり、そういった人は別の病棟でひっそりとベッドの上で過ごしていた。今後の対策としては教育活動が重要になってくるが、習慣的に男性が多く女性の性交渉を持つところなので、それを変えていくのは正直難しいと感じた。

10月26日(金)

UYAPのモバイルクリニックについて打ち合わせを行う。が、実際に明日行えるのかは微妙な状態。書類整理や手続きに手間取っている模様。今回の援助がどのように使われるかを確認したいが、今週末に行うのは難しいように思う。ローカルのNGOなので、あまりスケジュール管理には厳しくないようだが、フィールド活動なので、予定変更などは仕方ないように思う。結局夜まで待っても結果が出ず、明日に持ち越しになった。もし明日うまく手続きなどが済めば、日曜日に行うという。

10月27日(土)

午前中にUYAPでモバイルクリニックの実施について検討するも、結局手続きが間に合わず、またしても延期。結局今回はUYAPのメインアクティビティの一つであるモバイルクリニックを見れずじまいとなった。薬がどのように使われるかなどをチェックする必要もあったが、UYAPの報告などを待つことにする。

午後はGUSCOで元少年・少女兵士のインタビューを行う。特に変わった事例の子どもはおらず、他の子どもと同じようなストーリーだった。

10月28日(日)

モバイルクリニックが実施されなかったため、オフとなる。地元紙の記者から情報収集。

10月29日(月)

今回お世話になった現地のNGOなどへ挨拶に。今後の支援などについて意見交換を行う。UYAP、GUSCO、NUMAT、その他ローカル団体や今回の支援活動を記事にしてくれた新聞社など。

10月30日(火)

早朝、カンパラへ移動。

10月31日(水)

カンパラにて、物資運搬を頼んだドライバーや医薬品を購入した薬局などを訪ねて挨拶など。

11月1日(火)

ナイロビに移動。報告書などのチェック。

11月2日(水)

ナイロビよりフライト。

元・子ども兵士の社会復帰状況についての調査結果については、次号で詳しくご紹介します。

アフリカ平和再建委員会 (Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN)

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ511

Tel/Fax: 03-3351-0892 E-mail: info@arc-japan.org ホームページ <http://www.arc-japan.org>

